

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2013.9

vol. 89

ポルトガルでの経験

連携室だより「鹿児島医セン」先月号の中で、慢性血栓塞栓性肺高血圧症（CTEPH: chronic thromboembolic pulmonary hypertension）に対する経皮的肺動脈バルーン拡張術（BPA: Balloon Pulmonary Angioplasty）を紹介させていただきました。現在この治療は、ヨーロッパの一部の国で行われているのみであり、症例数や論文による報告から見ても、日本が世界をリードする立場であることは間違いありません。私が岡山医療センターに国内留学させていただいた際に、BPAの見学に来ていただいたことが縁で、去る7月3日から7月5日までポルトガルのサンタ・マルタ病院にBPAに関する講演と実際の治療に行かせていただきました。今回はその報告をさせていただきます。

サンタ・マルタ病院は年間の経皮的冠動脈形成術件数（PCI）が1500件を超えるリスボン市内にある歴史ある病院です。今後、リスボンを代表する循環器の基幹病院となるべく、BPAを含め経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）や経カテーテル的心房中隔欠損症閉鎖術等の先進治療を積極的に行っているそうです。7月3日に3名の患者様に対してBPAを施行し、慣れない環境と言葉の壁に苦労しましたが、何とか治療を完遂することができました。BPAの治療効果を実感していただいたことで、今後もこの治療を継続して行っていきたいとおっしゃっています。

今回、このような得がたき体験を経験させていただいた鹿児島医療センターのスタッフの皆様方、岡山医療センターの松原広己先生に、この場を借りて深く感謝申し上げます。



講演終了後のスナップ写真

（文責：鹿児島医療センター 第二循環器科 下川原 裕人）

診療科紹介 一産婦人科一



当院産婦人科は国立鹿児島病院が伊敷にあった頃から診療を行っています。南九州中央病院として現在地に開設されてからしばらくは伊敷分院で診療を続けていましたが、昭和59年4月に統合され現在地で診療を開始しました。

当院産婦人科は現在3人で診療を行っています。産婦人科全般の診療を行っていますが、特に婦人科腫瘍（良性・悪性）の症例が多く入院患者の6～7割が悪性腫瘍の患者です。毎年90例から100例の新規癌患者に対して当科で治療を開始していますが、最も多いのは子宮頸癌の患者です。子宮頸癌は若年者で増加傾向が著しいのですが、非常に早期（上皮内癌）で発見される症例も多く、円錐切除術のみで治療を終了し子宮を温存できる症例が増えています。一方進行した症例も相変わらず多く、手術不能で放射線治療を行う患者も多数見られます。近年放射線治療と化学療法を併用することで手術療法と放射線治療の治療効果がほとんど変わらないことが報告され、欧米では初回治療で放射線治療を選択するケースが増えています。日本でも広汎性子宮全摘術の術後合併症を考慮し、手術可能な症例でも放射線治療を選択する患者が増えてきました。子宮頸癌の放射線治療には腔内照射装置といわれる特殊な治療機器が必要で、この装置を備えているのは当院を含め鹿児島には3施設しかありません。地域癌診療拠点病院として当科も鹿児島県の子宮頸癌患者治療に一役買っているものと自負しています。子宮体癌症例も確実に増えています。30年ほど前は子宮癌全体に占める子宮体癌の割合は10%強であったものが現在では50%を超える勢いです。子宮頸癌と異なり集団検診による早期発見が確立しておらず、不正性器出血を自覚する患者の早期受診が望まれるところ

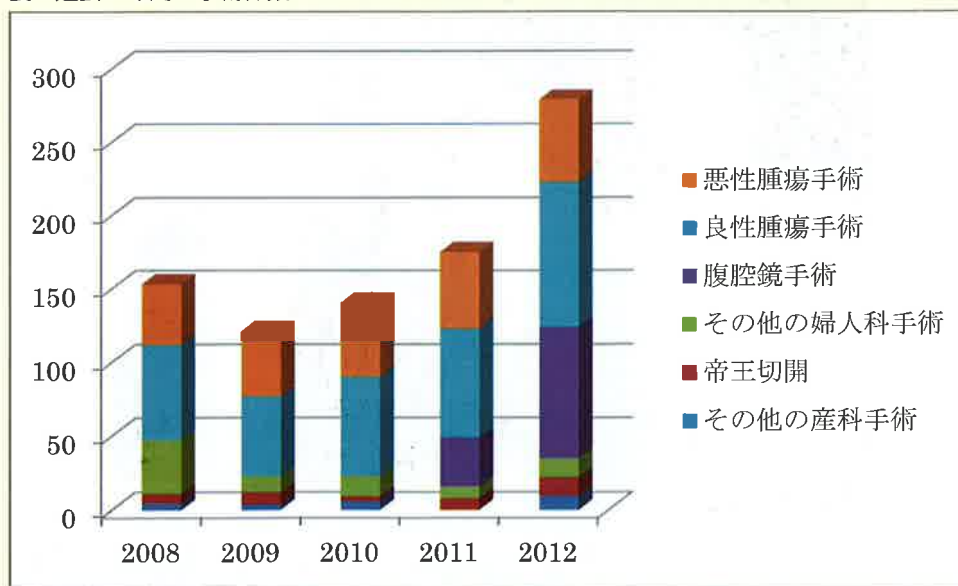
です。卵巣癌については進行してから見つかる症例が多く、初回手術で腫瘍をすべて摘出できない症例も多数あります。他の婦人科癌と異なり根治的手術ができなくても腫瘍減量手術を行うことで術後の化学療法の効果を上昇させることができます。当科では自院の手術例だけでなく他院で手術を行った症例の化学療法も引き受けています。

良性疾患を含む手術症例がここ数年増えています。婦人科良性腫瘍の手術は近年腹腔鏡手術が広く普及してきました。当科にも平成23年、産婦人科内視鏡学会技術認定医が赴任したのをきっかけに内視鏡手術を開始しました。子宮筋腫や卵巣腫瘍など適応を選んで腹腔鏡手術を行っており、子宮外妊娠などの急患にも腹腔鏡手術で対応しています。当科の過去5年間の手術症例をグラフにしました。腹腔鏡手術が顕著に増えているのがわかります。現在婦人科領域では悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術は保険適応がありませんが、他科の状況を見ると婦人科領域でも近々認められると思われ、ますます腹腔鏡手術が重要になると考えられます。

さて当科では分娩も取り扱っています。前身の国立鹿児島病院当時は年間600件を超える分娩を取り扱っていましたが、当地への移転、少子化、さらに追い打ちをかけたのは『九州循環器病センター』への改名で、これを境に年間分娩数が100件を切り、現在では取り扱い分娩数が50件程度にまで減少しました。心疾患や血液疾患、糖尿病合併妊娠など合併症を持った妊婦さんが多いものの正常妊娠にも対応しています。今年度は陣痛開始から分娩、回復期まで一貫して同じ部屋で過ごせるLDR室も導入し、快適な分娩になるよう準備万端整えています。心当たりの妊婦さんがおられましたら声をかけていただければ幸いです。

（文責：産婦人科部長 飯尾 一登）

表：過去5年間の手術件数



診療ひとくちメモ

副腎偶発腫瘍



「副腎偶発腫瘍 adrenal incidentaloma」とは、副腎とは無関係な疾患や検診時のCTなどの画像検査により偶然に発見された副腎腫瘍の総称です(図1)。副腎疾患の中で最も多く、近年の画像検査の普及により増加しています。発見の契機は、人間ドッグが最も多く(31.6%)、次いで腹部症状の精査(16.2%)、高血圧の精査(12.0%)となっています。有病率は不明ですが、腹部CT検査で副腎腫瘍が発見される確率は0.35～4.36%、剖検ではさらにその4倍とも報告されています(Kloos RT et al: Endocr Rev, 1995)。

副腎偶発腫瘍の病因別頻度は、約半分(50.8%)がホルモン非産生腺腫であり、10.5%がコルチゾール産生腺腫(サブクリニカルクッシング症候群を含む)、5.1%がアルドステロン産生腺腫です(図2)。さらに褐色細胞腫、悪性腫瘍転移、副腎癌など早急に治療が必要な疾患も含まれ、これらは腫瘍径が大きいことが特徴です。

治療のポイントですが、ホルモン産生が明らかで臨床症状のある場合や、褐色細胞腫や副腎癌が疑われる場合(腫瘍径4cm以上)は手術適応となります。一方、腫瘍径が比較的小さく(2～3cm以下)、血液検査所見に異常がなければ外来での経過観察(6か月～1年毎)となります。ただし経過中、腫瘍径の増大やホルモン産生による症状が出現した場合などは手術適応となります。

当科でも副腎偶発腫瘍の精査を行っています。アルドステロン産生性の腺腫であれば、当院循環器科や泌尿器科とも連携し、選択的副腎静脈サンプリング後に腹腔鏡下副腎摘出術まで施行可能です。

もし日常診療で副腎偶発腫瘍に遭遇し、特にホルモン異常や高血圧、耐糖能異常、脂質異常症を伴う場合あるいは腫瘍径が大きい場合などは当科までお気軽にご相談下さい。

(文責:糖尿病・内分泌内科 小木曾 和磨)



図1. 肺がん検診で指摘された左副腎腫瘍(矢印)。精査の結果、ホルモン非産生腺腫であった。

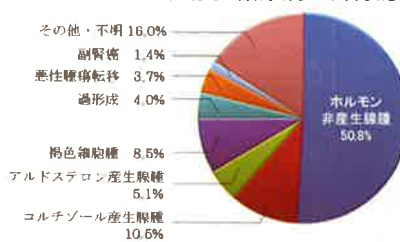


図2. 副腎偶発腫瘍の病因別頻度(上芝元:副腎偶発腫瘍の全国調査、2006、一部改変)

職場紹介

【臨床検査科】

始めに臨床検査科のスタッフを紹介します。科長は臨床病理科医長の野元先生で、上野技師長、牟田副技師長、生理検査担当は長友主任、佃主任、竹内主任、梅橋主任、古賀技師、大山技師、佐々木技師、橋本恵美技師、橋本剛志技師、西村技師、宮崎技師、上山技師、竹原技師、永里技師、検体検査担当は山下主任、櫛田技師、福田技師、波野技師、森技師、副技師長、病理検査担当は山本技師、窪田技師、採血・エコー室受付は末廣さん、小野田さん、村山さんの男性13名、女性14名の総勢27名の大所帯で業務に取り組んでおり、若者が多く活気ある職場です。

外来検査室では、尿検査、感染症検査、便潜血検査、血沈等を行っており、技師長が担当しています。

生理検査室は心血管エコー、生理検査、心臓カテーテル検査の3部門に分けられます。

昨年、病院の一部改築に伴い心血管エコー室の引っ越しが行われました。皆様方のご協力のおかげで、明るく、広く、仕事をするに非常に良い環境にして頂きました。また、長年の懸念でありました患者様の待ち時間に関しても、受付クラークの配置や昨年7月の電子カルテ導入に伴い予約時間制の試みなどが功を奏し待ち時間の短縮や患者様からの苦情が減少しました。

生理機能検査室では心電図、ホルター心電図、トレッドミル運動負荷試験、加算平均心電図、ABI、心筋シンチ、肺機能、肺機能特殊、聴力、脳波、神経伝導速度、皮膚灌流圧など数多くの検査項目を行っています。時間や技術を要する特殊な検査もありますが日々研鑽を積み診療に貢献しています。

心臓カテーテル検査では医師、看護師、放射線技師、臨床工学士とともにチーム医療の一員として日々検査に動んでおり、24時間体制の救急対応を行っています。

検体検査室では、生化学検査、免疫血清検査、輸血検査、血液検査、凝固検査、細菌検査等を行っています。ワンフロアで効率化と協力体制を整え少数精鋭で頑張っています。今年度からは増員に伴い新規項目の

追加や骨髄像の判読など、臨床の要望に対して柔軟に対応できるよう努力しています。また、IC T、NST、糖尿病教室の活動に参画し、チーム医療にも貢献しています。

病理検査室では、病理組織検査、術中迅速組織検査、剖検、細胞診検査を行っています。平成20年4月に野元先生が赴任され創部され、平成21年4月からは細胞診も院内業務となり、件数も年々増加しています。今年度からは細胞診資格者2人体制でがん拠点病院としての病理診断に貢献できる体制を整えています。またCPCやカンサーボードなどにも積極的に参加しています。

時間外の緊急検査は検体検査と心カテに呼び出し待機体制で24時間対応しています。

有資格者は、超音波検査士(循環器5名、血管3名、腹部2名、体表1名、検診1名)、心臓リハビリテーション指導士1名、認定心電技師1名、細胞検査士2名、認定血液検査技師1名、骨髄検査技師1名です。科内の目標として認定試験取得を掲げていますので、今後も多くの認定資格に全員でチャレンジして行きます。

最後になりましたが若い世代が多い職場のため人材育成が課題ですので、キャリアアップができる職場環境を築いて、信頼できるデータを迅速に報告できるように臨床支援に努めて参りますので、今後とも宜しくお願い致します。

(文責:副臨床検査技師長 牟田 正一)



鹿児島医療センター 平成25年度 循環器病看護エキスパートナース研修公開講座のご案内

鹿児島医療センターでは、循環器病看護の質の向上を図る事を目的に、10月21日(月)～10月30日(水)、8日間の循環器病看護エキスパートナース研修を企画しております。つきましては、この研修の全講義をオープン参加とし、地域の医療職、看護職員の多くの皆様にも参加していただけたらと考えております。

1講座から受講を受け付けており、いくつでも無料で受講できますので是非参加していただきたいと思っております。

月 日	日 時	場所	講義内容	講 師
10/21(月)	9:30 ~ 11:00	鹿児島医療センター 研修棟3階	循環器総論	副院長
	11:05 ~ 12:00		心エコー検査の実際	臨床検査技師
	13:00 ~ 14:00		循環器の薬物治療	薬剤師
	14:05 ~ 14:50		循環器患者の栄養管理	栄養管理室長
	14:55 ~ 16:25		虚血性心疾患の病態と診断	第二循環器内科部長
	16:30 ~ 17:15		カテーテル検査及び治療における看護	カテ室看護師
10/22(火)	8:30 ~ 10:20		心不全の病態生理及び治療	臨床研究部長
	10:30 ~ 12:00		心不全患者の看護	慢性心不全看護認定看護師
	13:00 ~ 14:00		慢性期患者のセルフマネジメント	糖尿病看護認定看護師
	14:05 ~ 15:40		虚血性心疾患の治療	第一循環器内科部長
	15:45 ~ 17:15		心臓血管外科最新の治療	心臓血管外科部長
10/23(水)	8:30 ~ 10:00		救急看護	救急看護認定看護師
	10:05 ~ 11:10	肺高血圧の看護	ICU 副看護部長	
	11:10 ~ 12:00	多職種協働における退院支援	退院調整看護部長	
	13:00 ~ 14:00	心臓リハビリテーション概論	リハビリテーション科医長	
	14:00 ~ 14:45	心臓リハビリテーションの実際	心リハ指導士	
	14:50 ~ 15:40	肺高血圧の治療	第二循環器内科医師	
	15:45 ~ 17:15	不整脈と治療	第二循環器内科医長	
10/24(木)	13:00 ~ 14:30	集中治療と看護・フィジカルアセスメント	集中ケア認定看護師	

参加希望期日・講座名・施設名・参加者名をご記入の上FAXでお申し込み下さい。(申込締め切り 10月11日)

参加申し込み先：教育担当師長：中村 千鶴 宛 FAX 099-226-9246

新任紹介

7月



救急科
堂籠 博

平成25年7月1日から救急科に勤務しております堂籠です。前任地は信州大学医学部附属病院高度救命救急センターですが、鹿児島は約2年ぶりでの勤務となります。救急科は新設の診療部門ですが、各方面の方々と相談させていただきながら、当院での救急医療のさらなる充実を目指して、業務を進めたいと考えております。加えて、県内の救急医療システムのさらなる充実にも少しでもお役にたてればと思います。どうかよろしくお願い致します。



耳鼻咽喉科
吉福 孝介

H25年7月から耳鼻咽喉科で勤務させて頂いております吉福です。7月の第1週目に病棟で使用させて頂きました。その際に他科の先生方に非常にお世話になり救命できましたことを感謝しております。非常に連携の取れた横のつながりが強い病院である事を実感させて頂きました。自身の専門は耳鼻咽喉科であります。頑張りますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。



脳神経外科レジデント
岡田 朋久

平成25年7月1日より脳神経外科で勤務させて頂いております。鹿児島市立病院で研修し、鹿児島大学脳神経外科勤務を経てこの度当院に赴任となりました。当院は循環器科や脳血管内科もあり、脳卒中に非常に特化しており、非常に心強く感じております。まだまだ脳神経外科医師として最初の1年目を踏み出したばかりで、不勉強な面や不慣れな面、多々あり、スタッフの皆様には大変ご迷惑をお掛けすると思っておりますが、少しでもお役に立てるよう一生懸命頑張りたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

8月



産婦人科
春山 真紀

平成25年8月から産婦人科に勤務させて頂いております。また病院のシステム等に慣れず、未熟で周りの方々にご迷惑をお掛けしてばかりですが、部長の飯尾先生、児島先生はじめ病棟スタッフの皆さん、そして患者様がとても温かく、日々業務に励むことができ感謝しています。早く仕事に慣れ、少しでも患者様のお役に立てるよう、精一杯努力していきますので今後ともよろしくお願いたします。



麻酔科
砂永 仁子

平成25年8月1日より、前任の鹿児島大学病院より異動となり、当院麻酔科で勤務させて頂いております。当院は、心臓外科をはじめとする循環器系疾患の症例が多く、様々な経験をさせて頂いただけるとともに、今後、麻酔科医として患者様や病院に貢献していければよいなと思っております。また、病院のシステムや環境に慣れない部分もあり、皆様方にはご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、日々精進してまいりますのでご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域医療連携室】 藺田・四丸・永重・重吉・森・吉留・山口・酒井・櫻木・竹田津
直通電話▶099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476
※休日・時間外は当直者で対応します。

